

プレスリリース 2010/05/27

報道各社 御中

「湊谷夢吉とその時代展」実行委員会

「湊谷夢吉とその時代展」6月札幌開催について

「湊谷夢吉とその時代展」実行委員会(代表・増淵敏之 法政大学大学院政策創造研究科教授他)は、2010年6月16日(水)～22日(火)の期間、札幌市において「湊谷夢吉とその時代展」を開催します。

湊谷夢吉は、1972年から1988年にかけて、札幌を拠点に活躍した漫画家で、その作品は高い評価を受けるとともに、少なからぬ作家たちに影響を与えました。彼の活動は漫画にとどまらず、1973年に設立した銀河画報社には、映画、音楽、演劇など札幌のサブカルチャーシーンを切り拓いた人々が結集しました。湊谷夢吉は、3冊の作品集を世に送り出し、1988年ガンのため38歳で惜しまれながら病没。以来20数年を経過しましたが、今も作品集の出版は回を重ねています。

私たちは、札幌や北海道が湊谷夢吉をはじめ多くの漫画家たちを輩出し、札幌を舞台に活躍する漫画家たちも少なくないことから、漫画という北海道発のコンテンツの重要性を再認識するとともに、現在の若き漫画家たちや漫画家を目指す若者たちに、湊谷夢吉の事績を伝えるため、本展覧会を開催いたします。

本展覧会では、遺族のご好意により、湊谷夢吉の作品原画を中心に展示。湊谷夢吉の監督した映像作品などのモニター展示や、出版された作品集等も設置し、来場者に読んでいただけるようにします。

また同時併催として、湊谷夢吉が活躍していた70年代から80年代の札幌という地方都市におけるサブカルチャーの興隆とそのありようを再発見し、現在の都市の文化経済創造の課題を考える連続シンポジウムを予定しています。

※なお本事業は、トヨタ財団の21年・22年度研究助成の対象となっています。

※詳細は別紙資料をご覧ください

## ■原画展 「湊谷夢吉とその時代展」

期間 2010年6月16日(水)～22日(火)

初日は 10:30～18:00 月・土 10:30～22:00 日 10:30～20:00

場所 TO OV cafe(ト・オン・カフェ)

札幌市中央区南9条西3丁目1-1・マジソンハイツ1F

★初日の6月16日(水) 19時～会場でオープニングパーティを予定しています。

★6月20日(日)17:30 オープン/18:30 スタートで、当会場にて本実行委員・三上敏視氏による『お神楽ビデオジョッキー&ライブの夕べ 第二夜』が開催されます。詳細は TO OV cafe(ト・オン・カフェ)まで。

## ■連続シンポジウム

### 「垂直の路地裏—1970～80年代における札幌市のサブカルチャーシーンの再確認と伝承」

札幌の70、80年代...中島みゆきが「南三条」に歌った都市のストリート。ここから音楽、演劇、映画、漫画、出版など、澎湃と沸き上がる文化の光芒があった。これら創造の「場」はどのように生まれていったのか。記録に残されることの少なかった札幌の70、80年代のサブカルチャーシーンを当時のキーパーソンたちが語る。

#### 【日時と内容】

日時 2010年6月19日(土)、20日(日)

場所 イベントスペース EDiT

札幌市中央区南2条西6丁目 南2西6ビル地下(東急ハンズ裏)

ファシリテータ

■増淵敏之 法政大学大学院政策創造研究科教授

1957年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科修了、博士(学術)。テレビ、ラジオ番組、音楽コンテンツ制作等に従事後、研究活動を開始。経済地理学、文化地理学をベースにして、コンテンツ産業の立地行動及び都市構造の変容との関係性などに関心を持っている。近著に「物語を旅するひとびと」(彩流社)などがある。

●6月19日 17～19時 session1 駅裏8号倉庫のインパクション

飯塚優子 レッドベリースタジオ主宰

中島 洋 シアターキノ代表

駅裏8号倉庫は、1981年9月にオープンし、1986年4月に活動を終結した、札幌のフリースペースだった。旧拓殖倉庫というのが正式名称だった。札幌のサブカルチャーシーンを語るには不可欠の文化的装置だった。駅裏8号倉庫の活動を振り返りながら都市における文化的装置の重要性について議論していく。

●6月20日 13～15時 session2 そこにあった音楽の場所

高瀬清志 芸森スタジオ副社長

和田博巳 元和田珈琲店店主

一人数多くのミュージシャンが巣立っていった街、札幌。とくに1970-1980年代はジャズ喫茶、ロック喫茶、ライブハウスが南三条通り界隈に集積し、様々なムーブメントも起きていた。当時の都市空間の変容に注目し、サブカルチャーシーンの形成過程を紹介していく。

15時30～17時30 session3 湊谷漫画と銀河画報社

阿部幸弘 漫画評論家

ミミ山田 シェッタガーリア/オフィス観音代表取締役

一湊谷夢吉、山田勇男、三上敏視などによって1973年に札幌に設立された「銀河画報社」の活動をマンガを中心にして紐解いていく。ジャンルを越えての活動がその後、展開されていくが、現在への影響を視野に入れて1970-1980年代の札幌のシーンを読み取っていく。

パネリストプロフィール

■飯塚優子:

アートコーディネーター 赤い実企画代表/レッドベリースタジオ主宰、4丁目プラザ(ファッションビル)企画宣伝部退社後、芸術文化ホール建設に関わる市民運動事務局や、(財)北海道演劇財団設立事務を担当、北海道演劇財団監事、北海道文学館評議員。札幌学院大学非常勤講師。

■中島 洋

シアターキノ代表。北海道大学入学映画研究会に所属し自主制作、自主上映活動を始め、80年代は映像ギャラリー・イメージガレリオを拠点に活動、92年市民株主の出資による映画館「シアターキノ」を設立し代表となる。駅裏8号倉庫の運営委員として同活動を牽引した一人。

■高瀬清志:

1970年代からバンド活動を始め、「スパニッシュ・ムーン」を結成、その後、YAMAHA、WESSと転じ、FMNORTHWAVEの開局に参加する。2008年常務取締役を最後に辞し、現在、芸森スタジ

才副社長。

■和田博巳:

1970年代に上京、高円寺でロック喫茶を経営、その後、はちみつばいのベーシストとして活躍。解散後、札幌で「和田珈琲店」「バナナボート」を経営、プロデューサーとして活躍しつつ、現在はオーディオ評論家としても著名である。

■阿部幸弘:

マンガ評論家として北海道新聞や「鳩よ！」(マガジンハウス)「ユリイカ」(青土社)等への寄稿、数々のマンガの解説なども行っている。現在はフリースペース「ATTIC」にも関わっている。精神科医。

■ミミ山田:

1983年伝説のバンド・シェッタガーリアを結成。札幌のライブハウスの動員記録を次々と塗り替える。プロモーションビデオを湊谷夢吉が監督するなど銀河画報社とのコラボレーションを行う。現在もバンド活動を続けるかたわら、演劇、映像、音楽などを複合したイベント「観音秘宝館」を定期的に行っている。

★本シンポジウムは、USTREAM+Twitter でインターネット中継される予定です。

「湊谷夢吉とその時代展」実行委員会

共同代表 麻生栄一(コアアソシエイツ代表取締役)

北村清彦(北海道大学大学院文学研究科教授)

中島 洋(シアターキノ代表)

増淵敏之(法政大学大学院政策創造研究科教授/北海道マンガ研究会代表)

本事業に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

「湊谷夢吉とその時代展」実行委員会事務局

株式会社インテリジェント・リンク

060-0004

札幌市中央区北4条西7丁目緑苑第2ビル307号

TEL 011-270-2080 FAX 011-271-2055

e-mail minatoya@hokkaido-manga.jp

・開催に関する情報は下記で常時公開しています

URL <http://hokkaido-manga.jp/minatoya/>

Twitter <http://twitter.com/yumekichimanga>